

究区分	教員特別研究推進 教育推進
-----	---------------

研究テーマ	専門職(管理栄養士)のキャリア形成を促す 臨床栄養師実践演習プログラムの拡充および事業の整備				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	新井 英一
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	桑野 稔子
		所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	市川 陽子
		所属・職名	食品栄養科学部・講師	氏名	串田 修
		所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	川上 由香
		所属・職名	聖隷浜松病院・客員教授	氏名	渡邊 卓哉
		所属・職名	藤枝市立総合病院・臨床教授	氏名	篠原 由美子
		所属・職名	静岡県立総合病院・栄養管理室長	氏名	高橋 玲子
		所属・職名	静岡県立こども病院・栄養管理室長	氏名	鈴木 恭子
		所属・職名	静岡市立静岡病院・栄養科長	氏名	久保田 美保子
発表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	新井 英一	

講演題目	臨床栄養師実践演習プログラムの拡充と事業の整備
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>これまで本学の管理栄養士養成施設における教育は、高度な専門知識を習得できるカリキュラムに加えて、実践的な技術を習得するために、優れた実践指導者（臨床栄養師）を招聘し専門実践技術である栄養ケア・マネジメントの活用実践例を具体的な事例を通して学ぶ実践演習プログラムを構築してきた。しかしながら、専門職としてのキャリア形成の基盤へとつなげるための実践的な技術を習得するためには多くの時間を必要とする。限られた履修時間の中で、実践演習プログラムをより効果的なものにするためには、優れた実践指導者とともに新しい演習法の開発、教育環境の整備が必要である。そこで、本研究では、本学教員と実践指導者間で、これまでの演習のリフレクションを行うとともに、課題に対する新しい試みを演習に活かし、その効果を検証することとした。さらに、本学で独自に開発した管理栄養士大学院研修プログラムである、特別インターンシップ（大学院博士前期課程）に必要な教育環境の維持・整備のために、栄養専門職のキャリア形成における臨床研修の在り方についても、臨床研修担当者との協議を行った。①実践指導者によるキャリア形成の基盤整備：栄養ケア・マネジメントの実践研究者でもある「臨床栄養師」による栄養ケア・マネジメント演習プログラムを、栄養生命科学科3年生に対して実施した。本プログラムの担当を、本学大学院修了生で臨床栄養師である大谷千晴氏（金沢西病院 管理栄養士）、竹内尚恵氏（福井県済生会病院 NST 専従管理栄養士）、竹内沙紀氏（しのぎき医院 管理栄養士、元藤枝市立総合病院 NST 専従管理栄養士）に依頼した。具体的な事例を用いたグループワークでは、討議内容のズレ、進捗の差、専門職の卵としての意識の温度差などが大きな問題であることが課題として明らかになった。この解決策の1つとして、各グループにプリセプター、ファシリテーターを必ず配置することや、臨場感などを体験する環境を整備する必要が生じた。今年度はコロナ禍ということもあり、対面での対応が難しいことから、次年度以降の課題として継続的に検証を行うこととした。②特別インターンシッププログラム拡充の整備：大学院生で本プログラムを修了した栄養専門職（1名）は、次世代の栄養専門職に対して啓発を強く促す力を備えることが明らかになった。また、臨床栄養師研修プログラムを拡充できるかについて、県内他の3施設の臨床実務担当者との協議を行った。課題として、臨床現場における指導者不足、期間、費用や院内の処遇整備などが挙げられた、今後継続的に協議を行い、教育環境整備の推進を図る。</p>